

[話題提供] 西湖におけるクニマス資源の動向

[要約] 2022 年秋のクニマス資源量は 5,479 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）と推定され、過去最高となった 2021 年の推定尾数 17,030 尾から減少している。

[担当] 山梨県水産技術センター・スタッフ・小澤諒

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁業協同組合、富士河口湖町

[背景・ねらい]

クニマス保全に悪影響を及ぼしうる要因として、ヨーロッパウナギによるクニマス卵の食害や、産卵場湖底湧水が少なく局地的であることが考えられ、現在まで産卵保全を目的とした実態調査や駆除技術開発に取り組んでいる。ここではクニマス保全の基礎知見となる資源量を推定し、その動向を評価する。

[成果の内容・特徴]

1. 2022 年秋の推定資源尾数は 5,479 尾（1 歳以上、寿命 6 歳とした場合）となり、過去最高値となった 2021 年より減少したが、2012 年以降 5 番目に高い推定資源量となっている（図 1）。
2. 2023 年秋の試験採集ではクニマスの採集比率が 11.6%（クニマス尾数/[クニマス+ヒメマス尾数]）、1 時間当たりの採集者の平均釣果が 0.37 尾/人・時間と、低水準だった前年度（5.1%、0.07 尾/人・時間）に比べ上昇し、採集比率は 2020 年並み、平均釣果は 2021 年、2012 年に続き 3 番目に高い値となっている（図 2, 3）。
3. 2023 年秋の資源推定値は 2024 年春漁期を含めた総釣獲尾数が確定した後となり、現時点では資源動向の評価はできない。

[成果の活用上の留意点]

ヒメマスに混ざり少数が釣獲されるクニマスの資源量推定を直接行うことは困難である。資源推定値はヒメマス資源推定尾数にクニマスの採集比率を掛けて得られる精度の粗い概算値であり、傾向を推定するための指標と捉えることが望ましい。

[期待される効果]

大まかではあるがクニマスの生息状況を推定することで、保全対策を図る基礎知見となる。

[具体的データ]

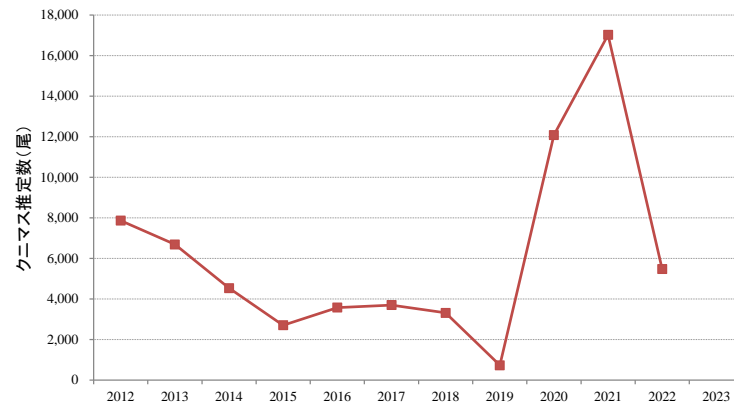


図1 クニマスの推定資源尾数 (1歳以上、寿命6歳とした場合)

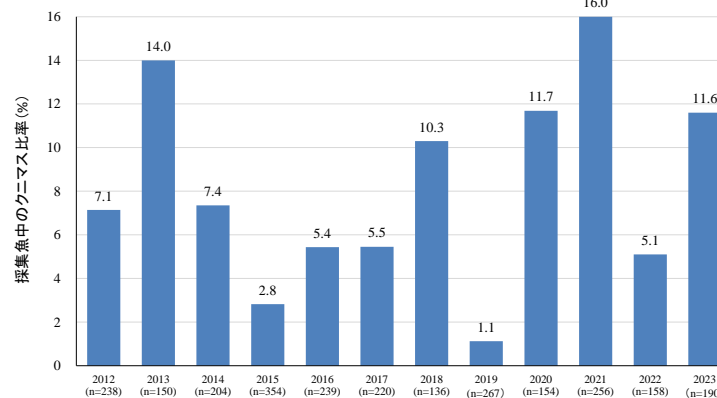


図2 試験採集魚中のクニマス比率

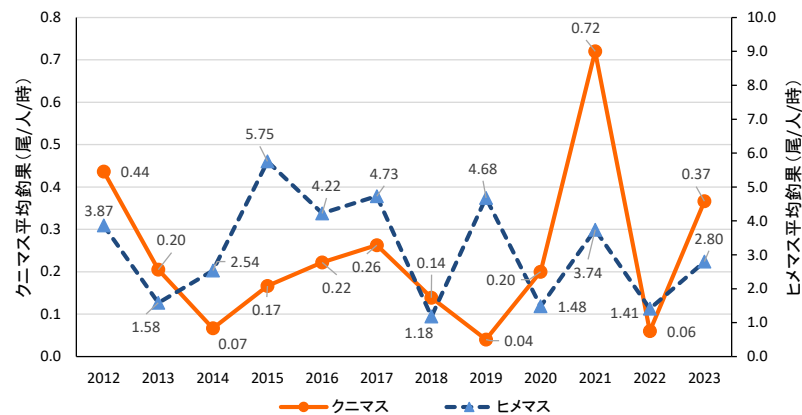


図3 試験採集時の平均釣果 (CPUE)

[その他]

研究課題名：①クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究、②クニマスの保全並びに活用に関する研究、③クニマスの保全及び養殖技術に関する研究、④クニマスの保全と養殖に関する研究

予算区分：①～③県単（総理研）、④県単

研究期間：①2012～2014年度（プレ研究・2011年度）、②2015～2017年度、③2019～2021年度（プレ研究・2018年度）④2022年度～

研究担当者：小澤諒、名倉盾、芦澤晃彦、青柳敏裕、加地弘一、藤原亮、谷沢弘将、岡崎巧、三浦正之、平塚匡、坪井潤一（退職者現水産機構技術研）、高田芳博（秋田県水産振興センター）